

監 査 報 告 書

地方独立行政法人明石市立市民病院

理 事 長 藤 本 莊 太 郎 殿

私たち監事は、地方独立行政法人法第13条第4項及び第34条第2項の規定に基づき、地方独立行政法人明石市立市民病院の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第8期事業年度の業務及び会計について監査を行いました。その結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法の概要

私たち監事は、地方独立行政法人明石市立市民病院監事監査規程に従い、理事会に出席するほか、理事等から業務の報告を聴取し、必要な書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査し、財務諸表、事業報告書並びに決算報告書につき検討を加えました。

理事と法人間の利益相反取引、理事の法人業務以外の金銭上の利益を目的とする業務の実施、重要な財産の取得、処分及び管理、法令違反行為並びに業務上の事故等に関しては、上記の監査の方法のほか、必要に応じて理事等から報告を求め、当該事項の状況を詳細に調査いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告書は、法令等に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表及び損益計算書は、下記の事項を除き、法令等に従い、法人の財政状態及び運営状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) キャッシュ・フロー計算書は、法令等に従い、各活動区分に従って法人のキャッシュ・フローの状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 利益の処分に関する書類（案）は、法令等に適合し、かつ、法人財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項は認められません。
- (5) 行政サービス実施コスト計算書は、法令等に従い、業務運営に係るコストの状況を正しく示しているものと認めます。
- (6) 附属明細書は、下記の事項を除き、記載すべき事項を正しく示しており、指摘すべき事項は認められません。
- (7) 決算報告書は、下記の事項を除き、法令等に従い、予算の区分に従って決算の状況を正しく示しているものと認めます。
- (8) 理事の業務遂行に関しては、下記の事項を除き、不正の行為または法令等に違反する重大な事実は認められません。

なお、理事と法人間の利益相反取引、理事の法人業務以外の金銭上の利益を目的とする業務の実施、重要な財産の取得、処分及び管理、法令違反行為並びに業務上の事故等についても理事の義務違反は認められません。

記

事業報告書P40の「第1市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項6医療の質の向上 (3) コンプライアンス (法令・行動規範の遵守) の徹底」及び、財務諸表P10「IX、その他重要事項」、並びに財務諸表(附属明細書)P13「(2) たな資産の明細(注1)」に記載のとおり、第7期事業年度以前のたな卸資産残高について、以下の事実が認められます。

- ①法人の規程では、出納員の指揮のもと、毎事業年度1回以上の医薬品の実地たな卸が義務付けられているにもかかわらず、過去実地たな卸が実施されていなかった。
- ②出納員は毎事業年度実地たな卸を実施した旨の報告書を提出していた。
- ③第7期事業年度以前に医薬品のたな卸残高として採用されていた在庫管理システム上の帳簿残高が実在庫と乖離している可能性がある。

以上より、第8期事業年度の正確な期首たな卸資産残高を把握できず、第8期事業年度の損益計算書上の材料費の適正性が確認できません。

令和元年6月13日

地方独立行政法人明石市立市民病院

監 事 藤 井 伊久雄 ㊟

監 事 小 松 知 史 ㊟